

タイ学生が異文化交流

タイ国タマサート大学日本生活文化体験旅行

タイ国タマサート大学の学生・教員ら11人が、7月8日から18日までの11日間、本市に滞在し、日本の生活・文化を体験しました。

訪問団は8日、J R花輪線を利用し市役所に来訪後、宿泊先のホストファミリーと対面。10日の日・タイ文化交流会では、同大学教養学部長らも参加し、タイと日本の郷土芸能披露や、両国の料理を紹介し合い、関係者やホストファミリーらと交流を深め、



文化交流会でタイの民俗舞踊を披露する学生の皆さん

ました。

滞在中は、市内観光のほか、保育園、小学校、老人介護施設を訪問したり、地域のお祭りに参加したりするなど、地域住民との触れ合いを楽しみました。日程の終盤では「はちまんたい未来への種まきプロジェクト」のメンバーらとのワークショップを開催。市内での観光をテーマに討議し、本市を訪問しての体験や出来事、思い出を振り返りました。



はちまんたい未来への種まきプロジェクトのメンバーらと観光について意見交換(7月16日、松尾コミュニティセンター)

自然豊かな川を大切に

安比川水生生物調査会

安比川水生生物調査会(五日市地区資源保全組合主催)が7月25日、五日市コミュニティセンターで開催されました。

会には、五日市地区の小学生親子ら約70人が参加。荒天のため、実地調査は行われませんでしたが、参加者は、安比川清流会の伊藤重高会長らによる講演を聞き、安比川流域の環境保全の重要性を学びました。伊藤瑠那さん(安代小6年)は「川を汚さず、大切にしていきたい」と、感想を述べました。



安比川流域の環境保全について学ぶ子どもたち

登山の安全願い山開き

岩手山山開き

岩手山(2,038m)の山開きが7月1日、焼走り登山口付近で行なわれました。

山開きには、山岳関係者や一般登山客ら約200人が参加。神事で今年一年の山の安全を祈願しました。当日は、山頂付近が強風と濃いガスに見舞われていたため、予定していた頂上でのセレモニーは中止。山開きの日の登頂を目指していた登山者らは、残念そうな表情を浮かべながらも、8合目山小屋周辺で互いの労をねぎらい、再挑戦を誓い合っていました。



山頂を目指し一步一步進む登山者



真剣な面持ちで琴を演奏する園児たち

心和む愛らしい琴演奏

ひなぎく幼稚園七夕まつり

ひなぎく幼稚園(高橋アヤ園長、園児69人)で、7月4日、七夕まつりが開かれました。

かわいらしい浴衣姿の年長組23人の園児は、2組に分かれて、大人用の琴で「さくら」の演奏と合唱を披露。会場に詰めかけた保護者らから、大きな拍手が送られました。園児らは、5月下旬から週2回の稽古に励み、本番を迎えたとのことで、高橋陽斗くん＝北村＝は「一生懸命たくさん練習したので、うまく弾けた」と、達成感を語ってくれました。

地域の広場にぎやかに

大更ガーデンフェスティバル

大更ガーデンフェスティバル(同実行委員会主催)が7月11日、大更フーガの広場で開催されました。

会場では、屋台の飲食物に舌鼓を打つ人々や、地元の幼児、小・中学生らによる多彩なステージイベントを楽しむ人でにぎわいました。10年ぶりに復活した仮装盆踊り大会には、地域内外から約80人が参加。それぞれ思い思いの衣装を身にまとい、唄と太鼓の音に合わせて踊りを楽しみながら、個性を競い合いました。



仮装姿で盆踊りを披露する参加者の皆さん

すなっぷギャラリー



熱戦が繰り広げられた市サマーチャレンジカップ少年サッカー交流大会(7月4日、市鬼清水球技場)



染田鼓動の勇壮な演奏が注目を集めた七時雨温泉まつり(6月28日、西根老人憩の家)



市鳥獣被害対策実施隊へ委嘱状が交付されました(7月3日、市役所)



市内各団体が踊りなどを披露した市芸能発表会(6月28日、西根地区市民センター)



社会を明るくする運動に係るメッセージを岩手地区保護司会から受領(6月25日、市役所)



安代りんどうを載せた大型トラックを見送り

安代りんどうが全国へ

新岩手農協八幡平エリアりんどう出発式

新岩手農協八幡平エリアりんどう出発式が7月14日、同農協の安代花き出荷場で開かれました。

出発式には、リンドウ農家や関係者ら約200人が出席。同農協八幡平花き生産部会の高村敏彦部会長が「生産努力を続け、花き販売額15億円の早期達成を目指したい」と、あいさつしました。今年の『安代りんどう』は、雪解けが早く高温が続いたことで生育が順調で、例年より1週間程度早く出荷を開始。今後の需要期に向け、出荷量増が見込まれます。

参加者で支援方法探る

市・岩手西北医師会合同認知症研修会

市・岩手西北医師会合同認知症研修会が7月11日、八幡平ロイヤルホテルで開催されました。

同研修会には、市内外の医療関係者や市民の皆さんら約300人が参加。認知症の事例を通して、支援の方法や自身の役割などを話し合いました。講師を務めた大阪市のNPO法人『認知症の人とみんなのサポートセンター』代表の沖田裕子さんは「認知症の人を支えることで、地域が変われるのではないかと、支援を通じた地域づくりの可能性を示しました。」



認知症の事例を通して意見交換する参加者

市食材の魅力と出会う

八幡平のうまい食材を知る発表会

八幡平のうまい食材を知る発表会(市商工会主催)が7月22日、大更コミュニティセンターで開催され、市内の宿泊・飲食業者ら約70人が出席しました。

発表会では、八幡平市ご当地グルメ開発事業プロジェクト委員会の横澤盛悦委員長が「市を訪れた人に満足感を与えられる食を生み出すための機会にしたい」と、あいさつ。野菜などを生産する8業者が、素材の味を引き出した試食品を提供し、地元食材の素晴らしさをPRしました。



第11代目藤助農園の古川佑史さんはトマトをPR

工場立地で明るい展望

(株)住宅工業・市工場立地協定書調印式

住宅用木質パネル製造の(株)住宅工業(山梨県北杜市、北原正倫社長)の岩手工場立地協定書調印式が6月29日、市役所で行われました。

調印式には、県企業立地推進課の飛鳥川和彦総括課長が立ち会い、北原社長と田村正彦市長が協定書に調印。協定書を交換し、握手を交わしました。工場の立地場所は柏台1丁目で、北原社長は「雇用拡大などを視野に入れ、事業に取り組んでいきたい」と、将来の展望を見据えました。



協定書を交わす北原正倫社長(中央)と田村正彦市長(右)。左は県企業立地推進課の飛鳥川和彦総括課長

壮快に体動かし汗流す

第9回市老人スポーツ大会

第9回市老人スポーツ大会が7月23日、市総合運動公園体育館と多目的運動場で開催されました。

大会は、地区や地域ごとで4チームに分かれた団体戦。体育館では、ボール送りや玉入れ競技のほか、ゲートボールを使ったリレーで熱戦を繰り広げました。多目的運動場では、徒競走と長寿リレーが行われ、年齢を感じさせない走りで会場を沸かせました。

なお、結果は次のとおりです(●内の数字は順位)。
①松尾②田頭・平館③大更・寺田④安代



玉入れ競技で汗を流す参加者の皆さん



2本の棒でボールを操る「ボールころがしリレー」

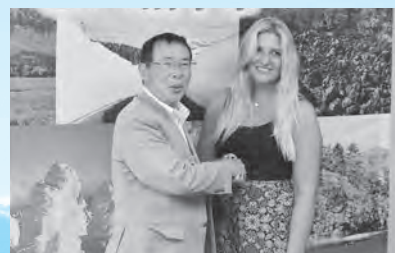
楽しみながら競い合う

第9回市子どもフェスティバル

第9回市子どもフェスティバルが7月4日、アリーナまつおで開催されました。

フェスティバルには、市内の小・中学生76人、11チームが参加。台上で6人が一緒にどれだけ乗ってられるかを競う「心身一体立ち」や紙飛行機をリングに飛ばし入れる「翼よ頼むぞ」など工夫を凝らした4種目の競技に挑みました。どのチームも競技を楽しみつつ、時には真剣な表情でゲームに取り組み、上位を目指しました。

すなっぷギャラリー



イタリアの大学生ビットリア・マンゼリさんが市内をホームステイ中に市役所を訪問(7月22日、市役所)



子どもたちがさまざまな表情を見せた泣き笑い相撲大会(7月17日、白坂観音大祭)



第1回まち・ひと・しごとと有識者会議を開催(7月23日、市役所多目的ホール棟)



迫力ある山車が大更地内を練り歩きました(7月15日、八坂神社例大祭)



はちまんたい未来への種まきプロジェクトが第1回ワークショップを開催(7月13日、田頭コミセン)